

あゆのライフヒストリー

現在のあゆ 自己紹介

診断:18歳で療育手帳を取得
ずっと忙しいし、安定した生活が送れない
「次から次へと事件が起こる症候群」

お仕事はしていない、10年以上子育てと家事をやってきた
今は大きなトラブルから脱出するための大きな転機
いつも思うけど「**生き損**」

生い立ち

- 父、母、弟の4人家族
- 抜けている、常識のない父(自分が子どもの頃、ネグレクトされていて知らん顔)
- 自己中の母(お金にうるさい、精神科に通っていた、弟ばかりで自分の面倒は見ない)
- 年子の弟は自閉症

子ども時代の記憶、風景

- ご飯や風呂、歯磨き、水を使うのをダメと言われる（お金がかかることは禁止される）
- 遊ばない、外に出てご飯を探していた
喘息の発作を起こして入院すると生活が満たされる
食べられる木の実を食べたり
- 子どもの頃に味方になってくれた人はいない

学校時代

- 小学校から全校からいじめられていた(見た目、体臭、服装など明らかに清潔などを保てなかったことなど)→そのせいで、今は見た目をとても気にするようになっている
- どんなにいじめられても給食を食べに学校に行った
- スーパーで万引きしたり、試食コーナーを活用
- 友達はいたにはいたけど、あまりいい思い出はない

今、考えると:汚くて、つんけんしている子ども
→周囲には一切、相談はしていない

転機(高校時代)

- 中学時代にできた親友と同じ高校に入学
- その親友が、高2の時に紹介された人が暴力団関係の人でその人に誘われるままに家出

※当時は公園のトイレなど、つかまえた男の家で寝泊まりすることもあり居場所がなかった

- 捜索願出され、警察に保護される
一時保護～児童自立支援施設に入所

今考えると、別に命を粗末にしてもいいと思っていた
危険な状態だと思うけど、その時の精神状態は正常ではないので「別に好きにすれば」と思っていた

施設生活を経て地元に戻る

- 児童自立支援施設で1年ぐらい(同じような境遇の子がいた悪くはないけど、対人関係は大変だった 規則正しい生活は初めて)
- 18歳になるのを機に、地元に戻り、NPOの支援を受けることになる

まず信用できない 遊んでやろう(来た男全部利用してやろうの勢い 社会全体へのあてつけ)
その中で、夫と出会い、考え方が変わっていった

結婚後の生活

- 夫の存在が人間不信が少しずつ解消した(素の状態でいられる、ずっと一緒にいても安心と思えた)
- 21歳で出産し、子育てが始まる
誰にも支援を受けず、自分なりに子育てをしてきた
- 2年前に夫が娘に虐待をして、警察沙汰になり、夫が精神的に不安定になり、精神科に受診するようになり、夫を四六時中、見守りする生活になった
→その生活に限界を感じ、かつて支援を受けていたNPOに再度連絡する

相談や支援について

大変になったときに、また相談しようと思ったのは？

①自分たちの過去をよく知っていること(丸ごと考えてくれること)

②動きが早い

療育手帳が厄介だった経験

「手帳を持っている」ことの先入観を持たれて関わられることが多くあった

朝比奈さんキーワード「わかってるか、わかってないか、目の前の人に伝わっていますか？」